

公表:令和7年3月23日

職員数 28名 回収数 28件 割合 100%

事業所名:伊勢原市児童発達支援センターおおきな樹

	質問事項	はい	どちらともいえない		わからない	工夫している点、課題等	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
			いいえ	いいえ			
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	17	11			<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の状態や児童同士の関係性、課題の内容によってロッカーなどを利用して広く使ったり個室のようにしたり工夫して環境を整えた。</li> <li>・個室スペースを作るためにロッカーを移動し工夫している。</li> <li>・<b>パーテーションや、ロッカーを上手く使い、部屋を利用している点です。</b></li> <li>・ロッカーで仕切りを動かせるので利用者の状態によって変更出来るが、お着替えやクールダウンする際などは足りない場面がある。</li> <li>・ロッカー等で仕切りクラスの動きに合わせてレイアウトしている。</li> <li>・静と動の活動や個に合わせるためにロッカーで区切る。</li> <li>・子どもたちの特性に応じて教室の構造を変えている。</li> </ul>	<p>⇒パーテーションの定期点検を実施し、不足分や破損箇所を補修・更新します。</p> <p>⇒児童の状態に応じて迅速に環境調整ができる体制を構築します。</p>
	② 職員の配置数は適切であるか	13	14		1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動時や待機時間などで人の手がもっとあればいいと感じることがあった。また、自由遊びの中で、動きが多い子に付きっきりになることが多く、穏やかな子と遊ぶ時間が持てず、バランスよく関わるのが難しい状況が多かった。</li> <li>・職員のお休みが重なると、人数配置が厳しいかなと思う時もある。</li> <li>・お休みが重なったり、利用者の状態によっては職員数が足りなくなる日や時間帯もある。</li> <li>・最低限の配置数はされているが、1人休むと回らなくなるのは疑問を感じる。</li> <li>・<b>突発的な職員の休みに十分対応できるだけの配置は難しい。</b></li> <li>・利用者の人数や、その日の調子によっても変わるが「あと一人いれば手厚く見られる」と思うことはよくある。</li> </ul>	<p>⇒法令上の人員配置以上の人員配置は行なっています。</p> <p>⇒月初めに職員の休暇予定を共有し、配置調整を事前に行なっています。</p> <p>⇒引き続きボランティアの受入れをおこなっています。潜在的なボランティアの発掘を行なっています。</p> <p>⇒求人募集を適時行ない職員確保に努めます。</p>

公表:令和7年3月23日

職員数 28名 回収数 28件 割合 100%

事業所名:伊勢原市児童発達支援センターおおきな樹

	質問事項					工夫している点、課題等	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
		はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		
③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	7	13	7	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に使える場所にクーリングスペースがない。</li> <li>・施設の設備上バリアフリーは難しい。</li> <li>・視覚支援が何故必要なのか、やり方が曖昧なまま絵カードなどを使っていることがあったり、準備が追いつかないことがある。</li> <li>・クールダウンのスペースがあるといい。</li> <li>・建物が古くバリアフリーではない。</li> <li>・気持ちが崩れたお子さんのクールダウンをする個室のスペースがほしい。</li> <li>・階段の手すりが片側しかない。</li> </ul>	<p>⇒建物は、元保育園の構造となっており、構造変更は難しいですが、環境整備等を行ない工夫しながら活用し、破損箇所については「修繕要望リスト」を作成し、危険度と使用頻度に基づく優先順位をつけて、行政とも設備面について検討を行なっていきます。</p> <p>⇒視覚支援ツールの作成・管理について統一を図るとともに、必要な教材が常時準備できる体制を整えます。</p>
④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	10	9	9		<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日消毒と清掃は行なっているが、日々使用するものが整頓出来ていなかったり、課題で使ったものの片付けが後回しになっている。</li> <li>・経年劣化は否めない。</li> <li>・床のいたがとげのように取れてしまうことがある。</li> <li>・壁紙が破れたりしている。</li> <li>・施設全体が老朽化している。</li> <li>・清掃は丁寧に行っていると思う。1階外トイレは人感センサーは付いているが、子ども達には冬場は寒いのではないか。</li> <li>・窓に隙間があり、砂埃が入る。</li> <li>・2階の男子トイレ中央の個室の便器が割れたままになっている。</li> </ul>	<p>⇒課題で使ったものは、その日のうちに元あった場所へ片付けるなど周知を行ないます。</p> <p>⇒子ども達の安全と、いつ見学者が来ても良いように日々の清掃の中に整頓を組み込みます。</p>
⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	15	11		2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス職員が参加して個別支援計画の検討を行っている。</li> <li>・振り返りや打ち合わせは充実してきていると感じるが、事務作業の時間がとれなくなっている面もある。</li> <li>・やることが色々あり、時間が足りていない。</li> <li>・日々の振り返りの仕方など改善している。</li> <li>・時短勤務だと参加が困難。</li> </ul>	<p>⇒全職員が支援目標等の確認ができるようICTの活用や情報共有の機会を設けます。</p>

公表:令和7年3月23日

職員数 28名 回収数 28件 割合 100%

事業所名:伊勢原市児童発達支援センターおおきな樹

		質問事項	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	工夫している点、課題等	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
業務改善	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	18	5	1	4	・全体には降りてこない保護者の意向もあるので把握は難しい。	⇒自己評価結果については、保護者、職員共に情報発信を行なっています。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか。	19	4		5		⇒毎年ホームページ上に公表しています。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	11	4	2	11		⇒外部評価は未実施であるが、今後は外部からの評価を検討します。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか。	18	8	2		・参加する機会はある。動画研修はみる時間がない。 ・研修は毎月行なっているが、新規職員への基本的な研修や伝達事項などは、追いついていないと感じる。 ・向上するとは言えない。 ・時間がなく、動画が見られなかった。 ・時短勤務だと参加できない。	⇒職員向け基本研修プログラムを整備し、必須研修完了体制を構築します。 ⇒動画研修については業務時間内視聴時間を確保します。 ⇒研修参加が困難な時短勤務職員には資料配布等で学習機会を保障します。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	21	6		1	・各クラスが利用者の日々の状態を把握しアセスメントがしっかりとれているので反映出来ていると感じる。 ・計画の重要性を全職員が理解し、計画に沿った支援を一丸となつて行なえるようにしていく工夫が必要だと思う。	⇒アセスメントが一職員の偏った意見にならないように、日々の記録から抜粋するなどきめ細かいアセスメントを行ないます。 ⇒クラス職員が担当者会議に参加し、個別支援計画を作成しています。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	16	8		4	・公認心理師、言語聴覚士のアセスメントや発達検査を行ない、支援の根拠にしている。	⇒聞き取り式の標準化された発達質問紙を用いて客観的なアセスメントを実施を図っていきます。

公表:令和7年3月23日

職員数 28名 回収数 28件 割合 100%

事業所名:伊勢原市児童発達支援センターおおきな樹

	質問事項	評価				工夫している点、課題等	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
		はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		
⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	22	3		3		⇒今後も、ガイドラインに沿ってお子さんの支援に必要な項目を適切に選択し、具体的な支援内容を設定し個別支援計画を作成していきます。
⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか。	13	11	1	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援計画は全員が関わっているが、やっていくなかでズレを感じる部分はある。各クラス打ち合わせや振り返りで統一を図っているが難しいと感じる時もある。</li> <li>・支援計画をすぐ読めるような工夫が必要だと思う。</li> <li>・やりきれていない所がある。</li> <li>・一人ひとりの個別支援計画を覚えていられず、実行できていないこともあった為。10月頃に月ごとの支援のポイントを書くようになったが、毎月の更新ができなかった。</li> <li>・現場で何に重きを置いて支援するか、職員によって認識にズレがあると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⇒個別支援計画の要点を共有し、支援ポイント確認時間、実施状況振り返り時間を設定し、PDCAサイクルを機能させます。</li> <li>⇒支援計画作成時には具体的な支援方法を職員全員で確認を行ないます。</li> </ul>
⑭	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	17	8		3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人によって相談できない人もあるので、チームで気にかける意識をしていきたい。</li> <li>・意見をまとめることが難しい場合も多く、全員で行なえばいいというものでもないと思う。</li> </ul>	⇒課題は、主任で月単位で検討し、同じテーマの課題をそれぞれのクラスの発達段階に合わせてアレンジし、活動プログラムの設定を行なっています。
⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	16	9		3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返し行なった方が良いものは、固定で行なっているものもある。</li> <li>・定着させた方が理解に繋がることもある。</li> <li>・新しいことを始めたときは、隔週で行ないルールや動作などの定着を図るため固定したが、子ども達が飽きないように、様々な課題を行なった。</li> <li>・同じことを繰り返す方が子供たちが安心して取り組むことができ、定着すると感じることも多い。</li> </ul>	⇒課題分類表を作成し、5領域に応じた発達段階ごとの課題の目標を確認できるようにプログラム化を行なっています。

公表:令和7年3月23日

職員数 28名 回収数 28件 割合 100%

事業所名:伊勢原市児童発達支援センターおおきな樹

	質問事項	評価				工夫している点、課題等	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
		はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		
⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成しているか	19	5	3	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別支援が行われるようになり、個々の活動をより丁寧に見られるようになったが、クラス内での個別活動は限定的になっている。</li> <li>・もう少し個別活動をする時間を増やしたい。</li> </ul>	⇒専門職による個別支援の実施により日々の支援にフィードバックを行ないます。
⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか。	24	2	1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝のマイクロバス添乗の職員に、打ち合わせ内容を共有することは難しかった。</li> </ul>	⇒送迎バスの添乗、保護者面談、係の打ち合わせなどで職員が揃わないこともあり、全員での打ち合わせは難しい状況であるが、最低限必要なことは、朝礼時に共有し、支援前にもクラス単位での打ち合わせを行なうことが出来るようになってきましたが、さらに情報の共有の工夫を検討します。
⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	16	10	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・行えない日もあるが、翌日の打ち合わせや振り返りで特記する点は確認できている。</li> <li>・振り返りの時間に聞きたいことが聞けないことも多い。時間が限られているので振り返りの方法を見直す必要があると感じる。</li> <li>・委員会などが入ると行えないときもあるので時間の工夫などが必要。</li> <li>・時間が足りていない。</li> <li>・時短勤務だと参加が困難(後日、確認するようにはしている)</li> </ul>	⇒1日のタイムテーブルを見直し、振り返り時間を確保します。委員会等で当日振り返りができない場合は翌朝に前日振り返りを行なう時間を設定します。時短勤務職員には翌日に振り返り内容を共有し、意見をもらう仕組みを構築します。
⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	19	8	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・その日のうちに記入できないこともある。</li> <li>・記録をとるための記録になっており、支援の検証・改善のための記録になっているかは不透明。</li> <li>・検証、改善には繋がらない。</li> <li>・話し合いきれていない。</li> <li>・面談前や行事の準備、会議などがあつた時に打ち込みができないことがある。続くことで記録が追いつかないことがある。</li> </ul>	⇒記録の目的を整理し「支援の検証・改善」に活かすことができるように検討します。

公表:令和7年3月23日

職員数 28名 回収数 28件 割合 100%

事業所名:伊勢原市児童発達支援センターおおきな樹

質問事項		はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	工夫している点、課題等	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか。	24	4				⇒担当職員のモニタリング等により必要に応じて個別支援計画の見直しを実施します。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	㉑ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか。	21	3	1	3		⇒児発管又はクラス担当者が出席し情報提供を行ないます。
	㉒ 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか。	20	5		3		⇒関係機関(児童発達支援事業所、幼稚園等)との連携は見学、情報交換を通して今後も深めていきます。
	㉓ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか。	12	4	2	10	・現在は医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のこどもの受け入れはない。 ・医療的ケア児と重症心身障害児は利用していない。	⇒施設の状況を勘案し検討します。
	㉔ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか。	8	6	4	10	・医療的ケア児と重症心身障害児は利用していない。受け入れ体制など、今後は必要になってくるのではと感じている。	⇒対象児童のあった際に受入れの対応について検討します。
	㉕ 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	24	4				⇒対象者については、関係機関に訪問等を行ない担当者会議を実施し、情報共有を行ないます。
	㉖ 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	24	4				⇒小学校の様子や引継ぎ内容を職員間で共有できるように工夫します。
	㉗ 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか。	17	4	2	5	・GSVなど他事業所から研修を受けることはあるが、回数は少ない。 ・管理職レベルではしているのかもしれないが、現場支援員他にはそういった機会が少ないように感じる。	⇒他機関との連携を図り、支援方法や制度の共有を図っていきます。 ⇒通園事業所連絡会へ参加しています。
	㉘ 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか。	6	2	18	2	・市役所の関係部署と協議中。 ・今後、機会があればと思うが、とにかく交流すればいいと安易に考えるのも違うと思う。	⇒市役所関係部署との協議を継続し、交流の目的・方法・効果を明確にした交流プログラムを検討します。
㉙ (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	15	4	2	7		⇒協議会のこども支援部会事務局を担当しており、地域の児童発達支援、放課後等デイビス、相談支援事業、学校、行政と共に研修等を開催しています。 ⇒子ども・子育て会議参加しています。	

公表:令和7年3月23日

職員数 28名 回収数 28件 割合 100%

事業所名:伊勢原市児童発達支援センターおおきな樹

	質問事項	はい	どちらともいえない		わからない	工夫している点、課題等	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
			いいえ	いいえ			
	③⑩ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	19	8	1		・「共通理解」を持っていると言いつつ切っていないものかどうか、判断できない。	⇒連絡帳記載内容を充実させるとともに保護者からの相談への回答や支援方針について職員間で共有し、一貫した対応ができる体制を構築します。
	③⑪ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか。	26	2				⇒来年度もペアレント・トレーニングを実施する予定です。
保護者への説明責任等	③⑫ 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	18	4		6		⇒契約時の保護者に丁寧な説明を行ないます。
	③⑬ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	22	3		3		⇒全職員が常にガイドラインを意識して支援できるように定期的に研修等を行ないます。
	③⑭ 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	22	5		1	・定期面談に加え必要に応じて面談や相談を行なっている。	⇒クラス担当以外の職員が受けた時の対応等や迅速な対応のための情報共有など対応方法を検討していきます。
	③⑮ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか。	18	6	1	3	・参加者が少ない。	⇒卒園児の保護者を含めた親子交流会を検討していきます。
	③⑯ 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	20	6	1	1		⇒基本的に即時対応を行なっていますが、時間調整が困難な保護者についてはzoomなどのツールでも支援の対応も行ないます。
	③⑰ 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	26	2				⇒年間予定表を作成し年間行事の案内を行なうと共に園だより等もホームページに掲載していきます。
	③⑱ 個人情報の取扱いに十分注意しているか。	24	3		1		⇒ホームページの写真掲載等において同意書を使用し、確認を行なっています。
	③⑲ 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	22	5	1			⇒外国籍の保護者の方への情報提供の方法については、個別に対応を行なっていきます。

公表:令和7年3月23日

職員数 28名 回収数 28件 割合 100%

事業所名:伊勢原市児童発達支援センターおおきな樹

	質問事項	はい	どちらともいえない		わからない	工夫している点、課題等	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
			いいえ	いいえ			
	④⑩ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか。	7	5	11	5	・個人情報保護しながらできうる、園だよりの配布などを行っている。 ・園だよりは自治会で回覧してもらっているが、招待などは行っていない。 ・行事に地域の方が来たことはない。	⇒行事への招待など検討していきます。 ⇒園だよりを地域の自治会に配布を依頼し、情報の発信に努めています。
非常時等の対応	④⑪ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	23	1	1	3	・防犯の研修はしたが、反省やアドバイスに対する改善がない。	⇒訓練実施後は必ず振り返り時間を設け、改善点を明確化します。改善点については責任者を決めて実行し、次回訓練にて行ないます。
	④⑫ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	25	2		1	・毎月の訓練は行なっているが、広域避難場所まで想定した訓練は行なっていない。	⇒年1回、広域避難場所までの避難訓練を実施します。実際の避難経路確認や移動時の課題を洗い出し、対応マニュアルに反映させます。
	④⑬ 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	17	7	2	2	・クラスのこと以外はほとんどわからない。 ・全員に周知ができていない。	⇒全児童の医療情報を一覧化し、個人情報に配慮した形で職員全員が確認できる体制を整備します。
	④⑭ 食物アレルギーのある子どもについて、示書に基づく対応がされているか 医師の指示に基づく対応がされているか。	22	3		3	・該当児はいない。 ・食材摂取確認表は見落とすことがあったため、毎日の打ち合わせで確認をし周知出来ると良い。	⇒対応が必要な児童については医師の指示書を基に対応を行ないます。
	④⑮ ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか。	26	1		1		⇒ラインワークスなどを使用しヒヤリハットの事例集を作成し情報の共有を図ります。
	④⑯ 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	25	3				⇒研修で学んだことを実践できているかセルフチェックなどを利用し検証を行ないます。
	④⑰ どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	17	4		7	・身体拘束が必要な子どもはいないと思われるため。	⇒引き続き身体拘束の研修を行ない、職員が関わり方の根拠を説明できるようにしていきます。

◎ この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。